

毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵税共五十錢）



講話とこころ

比喩 警句 諧謔集

千葉 高 島 生

◇ 機 性

翠書に、「一粒ノ麥地ニ落テテ死ナズ
バ唯ツツニテ在ラン、若シ死ナバ多クノ
果ヲ結ブベシ」とあります。犠牲なくして
新しいものは生れ出ません。以前の東京は、晴天の日には黄塵萬丈天日爲に暗く、雨天の日には泥濘三尺塵を没し、銀座街頭ドゼウが住むと言はれた程の悪路でありましたが、大正十二年九月一日、彼の木炭火災の洗禮を受けた爲に、今日の美しい帝都が生れ出たのであります。我が蠶絲業も昭和五年以来の蠶絲恐慌に依つて、幾多の犠牲を献げたのであります。併しそれは古いものが亡びて新しいものが生れ出る陣痛の苦みであつたのです。今日蠶絲業の法制が完備して、更生の緒につきつゝある斯業の前途は、實に洋々として希望に満ちて居るのであります。聖書に更に、「終リマデ忍ブ者ハ救ハルベシ」と訓へて居ります。

◇ 資源愛護

某縣下の一小學校の小便夫婦が、兒童の捨てた塵紙を拾つて湯沸しの燃料として、日に二十錢、月六圓の燃料節約をして「校長はじめ関係者を感激させた」といふことを或る新聞で見たことがありま

和 清 山 香 衆 編
市 門 上 野 輯
校 學 田 野 行
會 町 市 中 發
所 可 印 所 刷 印

す。なる程小便は美しい、併しその行爲は善行とは認められません。何故といふに製紙原料として年七千萬圓の巨額のパルプが輸入されてゐることを知らず、還元すれば立派な資源となり得る塵紙を僅な經費節約のために棄てることは、愚であるからであります。二十錢に當る薪炭の熱量を出す塵紙といへば可なり澤山な量でありますから、之を屑屋に拂へば、損得勘定は別として製紙資源に還元される譯であります。世の中には斯うした履き違ひが往々にしてある。消費節約と云へば絹物をやめて木綿を着ることだなどと考へることは時代錯誤で、今は國產愛用、資源愛護の時代であることを忘れてはなりません。絹物を集めて布團綿に代用することなども、時局柄、特に有意義のことだと思ひます。

◇ 絹と質草

映畫「花嫁日記」を御覧になつたこと
がありますか。新婚の夫婦が郊外住宅地に世帯を持つて間もなく泥棒に見舞はれ現金や装身具を盗まれて了つて、家賃が拂へず、全く途方に暮れておりましたがフト思案したのは奥さんの晴着を質屋に持つて行くことでした。……質屋の番頭は質草をよく檢べてみて、『今時には珍らしい混り物のない本絹ですから』と言つて、思つたより澤山のお金を貸して呉れました。……皆さん着物は本絹に限りませう。着心地のよいこと、上品なこと、蟲

の喰はないこと、皺のよらないこと、長持すること、それに困つた時には質屋へ持つて行くに好都合でありますか。

◇ 七轉八起

支那の話——或る男が土器を廻つて肩にかけ道を歩いて居ると、繩が切れて土器は地上で碎けて了ひました。處がこの男、手に残つた繩を棄て、後を振り返りもせずその儘行き過ぎようとした。之を後方で眺めて居た王様が「ヘンな男だ。何故切れたのを檢べてみないのだらう」と不思議に思ひ追ひすがつて之を質してみますと、「切れて了つたものを、今更振返つてみだ所で、詮ないことだから」と答へました。之をきいた王様は見どころがある男だと思つて宰相にとりたてゝやつたさうであります。

古語に「散る花を惜むこと勿れ、出づる月を待つべし」とあります。徒に過去の失敗を苦にやむよりも、希望を將來に繋いで元氣をつけねばなりません。今回の失敗は何とお氣の毒の次第でありますけれど、七轉び八起き、將來の大成を期して頂きたいと思ひます。古歌に

池水に暫しが程に降り消えて

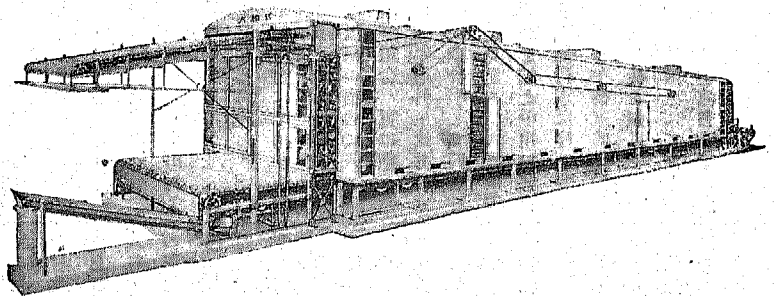
凍る方より積る白雪

とあります。雪の日、池を眺めて居ると初めに降つて消え、消えてはまた降るが、そのうちに池の隅から氷がはつて來ると、其上に段々雪が積つて參ります。小野道風が柳に飛びつく蛙に訓へられた故事は誰でも知つて居る話。一二度の失敗に挫折することなく、辛抱強くやつて居ることが肝腎であります。「人ニ——（辛抱）ハハ」と書いて金といふ字になるではありませんか。

◇ 掛 目

蘭相場を口にする時、よく「掛」又は「掛目」といふ事を申します。假令ば今の蘭相場は四十二掛だとか、一貫匁五圓

現代乾繭機界ノ王座 大和式自動輸送乾繭機



【各種型錄贈呈】

二五九九年代表型

製作發賣元

株式會社

大 和 三 光 商 會

東京京橋區京橋三丁目二番地

電話 京 橋 (56) 五 三 二 〇 番

營業課目
特許大和式自動輸送乾繭機
特許大和式自動人絹乾燥機
特許帶川三光式乾燥機
特許やまこ式淨水裝置
特許サンコー式廢湯吸熱器
特許サンコー式高壓ポンプ
特許サンコー式トラ

八十錢だから掛目は四十五掛に當るなど
と申します。之は一體何の事でありませうか。其道の人にきいてみても却々素人
分りするやうな説明が出来ません。そこで
私は他の商取引を例にとつて説明する
事を思ひ付きました。——今軍需品とし
て兎が盛に賣れて居ますが、その相場は
十六掛から十八掛位ださうです。之は兎
の生體量にそれだけ掛けた値で賣れる事
を意味しますから十六掛の場合、八百匁
の兎は一回二十八錢、一貫匁の兎は一回
六十錢となります。又豚の相場は十六掛
ですから、同じ一匹でも生體量の大小に
依つて値段が違つて來る譯です。蘭相場
の掛目もそれと同じやうに、あるものに
掛目を掛ければ一貫匁の繭の値段が定ま
るのですが、そのあるものとは、生繭百

母校ニユース

岡田量雄氏新任 母校を卒業以來京都府綾部町の新榮製絲に勤務されてゐた岡田量雄氏(蠶廿五)は九月三十日付を以て養蠶科臨時副手として圃場部に勤務せられる事となつた。

卓球部は去る九月三十日鐘紡丸子工場チームと對戦し、左の成績にて石西、山田、齋藤の三君を残し快勝した。此日の齋藤君、石西君のスマツシングは物凄いのがあつた。

一人優退勝拔試合
第一回戰

第二回戰

齋藤	宮村	竹下	山田	本	校	田代	齋藤	池田	佐藤	石西	竹下	重田	宮村	山田	本	校
3	0	1	3			0	3	0	0	3	3	2	3	1		
1	3	3	0			3	0	3	3	0	1	3	0	2	3	
有	小	土	横		鐘	有	宮	土	今	今	小野澤	橋	柴	横		鐘
田	野	屋	山		紡	田	澤	屋	井	中	野	田	山		紡	

石西3—0今井

本校 鑛紡
山田 3 0 小野
石西 3 0 土屋
更に十月一日税務署軍と對戦左のスコア
にて撃破す。

新保、岡田兩君 母校紡織科 業手	石重山齋竹佐山本	西田內藤下藤田	330303	0032332	中鈴松召室小	村木本近田賀島	稅務署
------------------------	----------	---------	--------	---------	--------	---------	-----

新保義二君並に本館使丁岡田徳男君は九月〇日〇〇を受け三十日母校關係者並に市民多數の歡送を受けて勇躍〇〇隊に赴いた。

吉田蠶絲局長來校 農林省蠶絲局長吉田清二氏外最上事務官、布谷技師、山田一行は十月二日から須坂町に開かれる第八回縣下養蠶實行組合大會出席の爲、十月一日入信、午後零時五十七分上田驛下車、蠶種同業組合上小支部で中食の後、蠶師上田友成、上田蘭生會社、言農蠶絲

會社、上田蠶種會社、母校、鹽尻村藤本蠶種會社等上小地方の蠶絲關係各所を視察されて長野に向つた。

音樂部秋季演奏會　音樂部では十月一日(土)午後七時より講堂に於て秋季演奏會を催した。聴衆は相當あつたが曲目が毎度見られる月並のものと多く斬新なるもの少きは物足らぬ感があつた。プログラムを左に示す。

第一部 一、ハーモニカ合奏（指揮鹽入）
「校歌」「校友會々歌」二、ハーモニカ
合奏（指揮日幡）「軍隊行進曲」三、ハ
ーモニカ五重奏（二年生一同）「コチロ
ン」「小さな支那人」四、尺八二重奏（
濱田、矢澤）「金剛石」五、マンドリン
ギター二重奏（鹽入、野島）「金婚式」

「黒い瞳」六、ハーモニカ獨奏（税田）
「小さな喫茶店」「アルーの女」
第二部 一、ハーモニカ合奏（指揮日幡）

「双頭の蟹の下に」キスメツト」二、
獨唱(關谷)「旅路」「日本よい國」三、
ハーモニカ合奏「瀬戸の風景」「岡牛土
の行進」四、ザイイオリン獨奏(税田)

「スベール」「アベマリア」五、マンドリン三重奏（鹽入、中錦、田中、宮田、野島、三宅）「郷愁」間奏曲ハーモニカ合奏（指揮鹽入）「別れのブルース」

第三部 一、マンドリンギター二重奏（鹽入、日幡）「赤い翼」「ドリゴのセレナード」二、獨唱（楠八重）「リンゴの木の下で」「グライダ―日本」三、ハーモ

ニカ合奏（指揮日幡）「アメリカンパ
 ロール」四、マンドリン合奏「ラスパニ
 ヨラ」「ドナウ河の漣」五、合唱（蠶
 專）合唱團、伴奏上田蠶專マンドリンバンド
 〔校友會々歌〕「愛國行進曲」

野球場にて遠來の山梨高校を迎えて一戦を交へ敗れた。本校メンバー左の如し。

打順	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	相原	若林	黒柳	箕輪	東	富島	永山	諏訪	
	遊一	左投	右二	捕三	中				

蹴球部長野へ還征 蹴球部では十月二日長野へ還征し午前中に長野師範と對戦して快勝、次いで午後本校新人は長野中

本校 0
4 3 2 0

本校 2
0 0 1 1
1 0 0 0

1 長中
0 長師

K H C L R L G
H H H F F K

遠 金 姜 深 城
藤 井 田 澤 口

長師 8470 GCFP
 本校 5120 GKCKFKPK
 長中 4110
 生徒二名應召 梅崎正道君(絲一)に○
 ○來り十月○日正に秋季野外演習に出發
 せんとする矢先、其場にて壯行式行はれ

其日の午後留守居職員、生徒一部の見送
りを受けて勇躍應召郷里〇〇に向つた。
武井頼太郎君(絲三選)に〇〇の通知あり

翌○日演習先田澤温泉宿に於て直ちに壯
行式が行はれ、士氣溢れる生徒の歡呼の
聲に送られ一端學校に歸り郷里○○に赴
いた。

十月五、六、七、八日の四日間に亘り上田・田澤温泉・地藏峠・會田村・松本・上田のコースを以て實施された。参加生徒人員は二二五名で同行職員は指原宣吉の進藤教務課長、小山少尉の外、井上校長、遠藤教務課長、學生課行元、志賀、宮原會計清水、教務北村、養蠶科山口、宮坂

町田、裴絲科内田、山田、征矢、紡織科野口、香山、小松の諸先生及諸氏て外に阿形、市原の兩氏が自由參加された。當四日間は誠に爽快なる秋の晴天に恵まれ恙無く所期の成果を擧げ得た。演習實施の大要は左の如くである。

第一日 午前八時全員校庭集合、校長の訓辭ありて九時出發、出發時製絲科一年生梅崎正道君應召出發し生徒の緊服、士氣大いに漲る。上田橋を渡り泉田村より浦里村に亘つて攻撃防禦の演習をなし

浦里小學校にて、晚餐をなし、諸君あり。
時半同校出發、青木村附近にて再び演習
午後二時半頃演習中止、同村小學校にて

第二日 午前七時半集合、更に應召通知を受けたる製絲科三年選科生武井頼太郎君の壯行式を行ひ校歌合唱して同君を送り一部代表は上田迄見送る。八時田澤出發、行軍にて地蔵峠を越え中川村會吉にて昼食、其れより飛龍行軍に多り會田

村附近にて遭遇戦を行ひ午後五時頃同村小學校にて青年學校女生徒を煩はした夕食を取り小休の後、同所附近にて河を狭んで夜間演習を行ひ八時半演習終了、大休止をなす。

第三日 午前七時會田村小學校出發、行軍にて馬飼峠を越え十一時頃松本聯隊

に到着、晝食後○時半より練兵場に於て通信連絡、瓦斯兵器、重機、歩兵砲等に就いての講演を聞き實演を見學、午後四

時頃市外淺間温泉の宿舎に到る。緊張せる兵營内外の空氣は生徒の心情を打つ所多かつた。

本驛に至り松本驛發午前八時三十分にて四日間の演習を終り歸途に就く。上田驛着午前十時四十分、十一時一同元氣旺盛にて歸校、留守職員の出迎へを受け運動場に整列校長の訓示、進藤大佐の所見あり銃器の手法をなし解散した。

所に農事研究機關、組合、模範農村、農業教育機關等を視察する途上、十月十四日浦和より來田、其夜は別所溫泉に泊り十五日母校に來訪、研究及教育施設を詳かに見學し續いて模範農村である浦里村

の村政、經營、副業指導等を見學した。
上美術展に出品 十月十四日より十八日の五日間に亘り上田毎日新聞社主催の第五回美術展覽會が市公會堂に於て開かれた。作品は日本畫、書、洋畫、工藝

紫苑(日本畫) 井上柳梧(職員)

風光靜寂(日本畫)	石倉彫石(職員)
九月(寫眞)	小林 敏(職員)
孟法師禪圖(畫)	武井顯太郎(絲三)
秋(洋畫)	關谷英一(蠶二)
青服の少女(洋畫)	全 人
海邊(羊畫)	全 人

初夏の風景(洋畫)	鈴木高明(蠶二)
冬の風景(洋畫)	全 人
物思ふ女(洋畫)	全 人
常田池(洋畫)	岡澤正義(飾)
秋(洋畫)	全 人
校舎(洋畫)	全 人
對句(書)	山邊律子(教一)

第廿三回陸上大運動會

恒例の陸上大運動會は十月十六日舉行豫定の所雨の爲延期十八日午前八時より曇り勝な秋空の下、ラウドスピーカー鳴り響く校庭に繰り繰り繰られた。先づ定刻に全員校庭に整列皇居遙拜をなし、次いで「時局を反映し質實剛健に体育を旨とし華美を排して……」との校長の訓示ありて後、三科の選手、應援團は國歌も高らかに順を追ふて入場し、九時頃には觀衆も相當に來訪し競技は開始された。各科の賣店等も本日は質素で修己食堂は無く養蠶科食堂は壽司、汁粉、團子、菓子、果物、製絲科賣店は眞綿、石鹼、教養養成科賣店は絹縫絲、紡織科賣店はタオル、綿木綿、富士絹、縫絲であつたが何れも甚迄に賣切れとなつた。名物の前夜の街頭宣傳も當日の餘興も無い時變下の運動會として俄然對科競技は白熱的混戦を演じ養蠶科の意氣物次々如き壓倒的成績を以て傳統的勝利を獲得した。紡織科がリレーに第一位となり合點數に於て第二位となつた事は始めての事である。斯くて餘興等無きにも拘らず割合に時間を費し夕闇迫り燈火欲し頃校長の訓示に依り盛會裡に幕を閉じた。

對科競技成績は左の如くである。

八〇〇米競走
村澤(蠶二)二分廿四秒九、2 御子柴(絲二)、3 中村(絲一)、4 柳澤(紡二) 5 茅野(絲一)、6 鈴木喬(蠶一)

圓盤投
1 平子(絲三)廿六米廿五、2 瀧澤(紡一)、3 田中光(蠶二)、4 足立(絲一)、5 板谷(絲三)、6 相澤(紡二)

一〇〇米競走
1 相澤(紡二)十二秒四、2 濱村(蠶二) 3 鈴木彦(蠶三)、4 吐師(紡二)、5 須藤(絲一)、6 御子柴(絲二)

走高跳
1 飯田(紡三)一米六五、2 岡田(絲二) 3 神崎(蠶二)、4 鞭(絲二)、5 目崎(蠶三)、6 江山(絲一)

第廿三回陸上大運動會

1 平子(絲三)十一米四六、2 相澤(紡二)、3 鈴木彦(蠶三)、4 柳澤(蠶二)、5 足立(絲一)、6 瀧澤(紡一)

四〇〇米競走
1 海野(絲二)一分一秒六、2 濱村(蠶二)、3 佐藤(蠶二)、4 鈴木喬(蠶一)、5 深澤(紡一)、6 御子柴(絲二)

二〇〇米競走
1 海野(絲二)廿六秒五、2 相澤(紡三) 3 吐師(紡二)、4 鈴木彦(蠶三)、5 柳澤(蠶二)、6 須藤(絲一)

一五〇〇米競走
1 村澤(蠶二)五分十六秒二、2 早野(紡一)、3 中村(絲一)、4 長澤(蠶三)、5 鞭(絲二)、6 茅野(絲一)

槍投
1 田中光(蠶二)廿九米、2 田中英(蠶一)、3 瀧澤(紡一)、4 吐師(紡二)、5 桶八重(蠶二)、6 板谷(絲三)

棒高跳
1 飯田(紡三)二米九〇、2 佐藤(蠶二) 3 神崎(蠶二)、4 松田(蠶二)、5 白川(紡二)、6 田代(絲二)

長距離競走(大屋橋往復)

1 早野(紡一)四二分五秒七、2 長澤(蠶三)、3 村澤(蠶二)、4 山田(蠶三) 5 竹内(絲二)、6 北原(蠶三)、7 松島(絲一)、8 中村(絲一)、9 林(紡一)、10 鹽入(紡一)

走市跳
1 飯田(紡三)五米七二、2 關谷(蠶二) 3 岡田(絲二)、4 目崎(蠶三)、5 五十嵐(絲一)、6 堀江(蠶一)

八〇〇米競走
1 紡織科チーム一分五一秒一 深澤(一)、飯田(三)、相澤(一)、吐師(一)

二〇〇米競走
鈴木彦(三)、濱村(一)、神崎(二) 鈴木喬(一) 板谷(三)、御子柴(二)、須藤(一) 海野(一)

計 103 85 94

計 103 85 94

團圓會

養蠶に生れた團圓同好會の第一回の例會が十月十九日、校庭運動會後の慰勞休日に千曲會館にて開かれた。出席者古谷、倉澤、行立、香山、志賀、清水、田玉、宮本、細谷、町田、小山、瀧澤の諸氏にて各人互に手合せし午前十時頃から夕暮まで愉快に過ぎた。

談話會例會 十月二十一日午後四時より今學期第三回の談話會を千曲會館階上に催した。演題、談話者は次の如し。

一、家蠶卵の硬度に就て 山口定次郎 慰問發給送 戦線に在る皇軍將士の勞苦に對しては誰しも深く感謝しつゝあるのであるが今同長野縣統後援會並に愛國婦人會長野縣支部の計らひで縣下の中等學校以上の諸學校の職員生徒が大体一人一個の慰問袋を作成、戦線に送る事となり母校でも之に参加、左記の如く合計二〇九個を作り、十月二十三日愛國婦人會長野縣支部事務所へ届けた。

職員 百十個
學生 七十八個
合計 二百九個

軍事見學 第三學年生の有志養蠶科二〇名、製絲科七名、紡織科一名、計二十八名は配屬將校進藤大佐、行元生徒主事に引率され十月二十四日午後十時三十七分の上田驛發にて横須賀、東京、松戸の軍事見學旅行に登つた。廿五日午前六時五十五分横須賀に到着、朝食後海軍工廠、軍艦、潜水艦、三笠艦等を見學、それより追濱航空隊に航空機を見學、講話を聞き四時頃見學を終つて東京に歸り宿泊。第二日は午前八時半神宮橋に集合して明治神宮に參拜、海軍見學をなしそ

れより松戸へ赴き正午に松戸陸軍工兵學校に到着、午後一時より五時迄、渡河村料、上陸作戰資料、陣地攻撃の要領、其他新兵等を見學後再び東京にて宿泊。第三日は午前九時靖國神社前に集合して靖國神社に參拜、遊就館、國防館を見學後は自由見學をなし午後五時四十分上野發、十時三十六分上田着にて歸校した。

金井正一氏新任

十月廿六日附圖書課へ金井正一氏が臨時雇として勤務される事となつた。同氏は上田中學校昭和七年出身である。

武漢陷落祝賀式 漢口を目前し長途幾多の困難を克服して進撃した皇軍は十月二十七日午後五時半武漢三鎮を完全に略した。この日こそ東洋史を更新する日として吾等は永遠に記憶せねばならぬであらう。母校では翌二十八日第一時限後職員、生徒、婦人、全部校庭に整列、嚴肅に祝賀式を行ひ、併せて東洋平和の礎石となつた幾多の英靈に對して默禱を捧げた。即ち皇居遙拜、一分間默禱、校長訓示、萬歳三唱を行つた。

提灯行列參加 武漢三鎮は遂に陥落した。國民は舉げて長期戦の緊要の中にも安堵と歡喜に爆發した。上田市でも此の歡びの提灯行列が十月二十八日午後六時から行はれた。母校にても欣然之に参加市内を五班に分けられた東區班に入つて六時上田高女校庭に集合、櫻木町、日出町から母校を通り大宮神社を參拜して招魂社に向ひ英靈に默禱、帝國萬歳を三唱して九時解散した。

勸學奉讀式 十月三十日が日曜日の爲一日繰り上げて二十九日午前八時より講堂に於て教育勸學並に教職員下賜勸語の奉讀式を舉行了。

高橋眞澄氏退職 昭和十年十一月より母校紡織科人絹研究室に勤務、人造纖維の研究をされてゐた高橋眞澄氏(紡七)は今回同氏の特許に係る人造纖維製造方法を提げて昭和産業株式會社に入社される事となり十月三十一日付にて母校を退職、三十日午後二時二十八分の上りにて職員多數の見送りを受けて任地に赴任された。斯業の進展に大いに敏腕を振はれん事を期待する次第である。

田中義賢氏來校 十月三十一日午前十時三十六分上田着にて九州帝大教授田中義賢氏が文部省視察委員として來校、母校職員と午餐を共にした後、教育施設、訓育、行事等を調査され午後五時四十分上り列車にて歸られた。

石倉謙師「紡績原論」を著す

母校講師、工學士石倉謙十郎先生は今回「紡績原論」(一二〇頁、定價一圓五十錢、養文閣發行)なる新著を公にされた。此所に其内容の一斑を紹介し、關係諸賢の必讀を御推めする次第である。因に御希望の向は本校千曲會館宛申込まれば送料共一圓五十錢で御取次するになつてゐる

總論

第一章 紡績の歴史的發達
第二章 生産業たる紡績
第三章 工業組織の紡績
第四章 工業經營の紡績

本論
第一章 紡績原料 第一原料の本性
第二章 原料の鑑識、第三原料の購入、第二加工 第一紡績加工の本質
第二章 準備加工、第三製絲加工、第四前紡加工、第五紡績加工、第六紡績絲の撚りの影響、第七撚絲加工、第八仕上加工、第三章 製品販賣

結論

新任御挨拶
拜啓秋冷の候愈々御健勝の段奉大賀候。陳者小生儀今回母校養蠶科開場部に勤務致す事に相成候に就ては今後宜敷御指導御鞭撻賜度奉懇願候。先は乍略儀に紙上御挨拶申述度如斯御座候。 敬具
昭和十三年十一月 岡田 量雄

絹紡織科三年生卒業製作題目

- 一、染浴中のpH値と染色性との關係 (小松講師) 淺井 清
- 一、ステープルファイバー紡績の製糸行程に於ける繊維の損傷に就て (野口教授、小林助教授) 飯田省三、岡田 信男
- 一、ヴィスコース熟成に於ける短期熟成 (香山助教授、湯原講師) 飯田 武門
- 一、精練の織布に及ぼす影響 (石倉講師、小林講師) 吉田 耕三、石立 輝久
- 一、各種繊維の吸湿性 (岡 教授) 北崎 喜義
- 一、アルカリ纖維素の老成及びヴィスコース熟成と繊維の強度との關係 (香山助教授、湯原講師) 木村 欽一
- 一、織物防水の物理的及び化学的性質に就て (目崎助教授) 古平 太三
- 一、糊の粘度と糊の吸收到力に就て (野口教授、目崎助教授) 近藤 士郎、柴田 利男
- 一、高湿度の空氣がステープルファイバーに及ぼす影響 (石倉講師) 下田 統夫
- 一、混紡布の各種試験 (目崎助教授) 高木 徳男、渡邊 博
- 一、ヴィスコース原液に添加物を加へた場合の繊維の強度に及ぼす影響 (香山助教授、湯原講師) 鷹取 稔、鶴岡 要三
- 一、絹の撚羊毛化に就て (小松講師) 西谷 剛一
- 一、各種羊毛のシステン定量 (小松講師) 宮坂 科晃

第十六回甘茶美術展覽會

例に依りアマチュアの素朴な藝術心を表現した懐かしい作品の数々を集めて母校を中心とした甘茶美術展を開催致します。代議員會を兼ねて會員諸氏の御出品と御鑑賞を歓迎致します。

- 一、會 期 十月二十日より二十七日迄
- 一、會 場 母校 養蠶室
- 一、出品種目 日本畫、洋畫、書、寫眞、手藝品
- 一、出品締切 十一月十八日

上田蠶絲專門學校内甘茶會

年賀廣告募集

例に依り本紙明年一月號に登載する年賀廣告を募集致します。元費節約等々本紙援助の意味で何卒多數御申込あらん事を切望致します。特に本年の如き非常時局に際しては年賀狀に替へるに本廣告を以てするは最も意義ある方法と思ひます。少くとも會員間文はそうしたいものです。

- 一、締切期日 十二月十五日迄

一月號は特に元旦に配達される様にすゝめ締切期日を右の如く早めます。年賀廣告以外の記事も同日迄に送附して下さい。

- 一、料 金 一人 金五十銭

特に指定なき勤務先姓名を載せず。記載事項に註文ある向は原稿を送附して下さい。字數が餘り多いと割増金を御願ひするかも知れません。御申込と同時に料金を振替口座東京四三三三一番へ年賀廣告の旨御明記の上御拂込下さい。

昭和十三年十一月

千 曲 時 報 編 輯 係

製絲科三年生卒業製作題目

- 一、蠶絲經濟 (林教授) 青木 茂美、阿部 豊、井上 正人、佐藤 忠富
- 一、養蠶及び繅絲に於ける臭狀菌の研究 (萩原助教授) 石西 正美、武井 頼太郎
- 一、繅絲湯に使用する解舒劑に就て (萩原助教授) 石原 二人、西井 茂雄
- 一、染色繅絲の脆化に就て (窪田助教授) 板谷 隆、中島 藤治
- 一、機械的解舒測定法 (内田教授) 小川 典二、中屋 正仁
- 一、繅絲の構造と強伸力に就て (窪田助教授) 楠森 定雄、中島 徳健
- 一、エンチーム繅絲に就て (古谷教授) 黒川 重壽、白井 一雄
- 一、生絲の細太が品位に及ぼす影響 (窪田助教授) 佐藤 俊郎、中錦 義久郎
- 一、繅絲の新規用途 (林教授) 鈴木 進、鹽入 重雄
- 一、多條繅絲の研究 (内田教授) 富永 暉、富永 恭一、山岸 琢治郎
- 一、藥品使用繅絲の貯藏試験 (萩原助教授) 長澤 四郎、箕輪 三治、宮田 皓
- 一、觸感作用に依る小蠶の除去 (萩原助教授) 濱田 秀彌、宮尾 三右衛門

養蠶科三年生卒業製作題目

- 一、健康蠶兒の消化管内に於ける細菌の分布狀態 (佐藤利教授) 有川 博
- 一、蠶と水分との關係に就て (山口助教授) 青山 武
- 一、桑葉に於ける細菌数は就て (佐藤利教授) 上原 眞徳
- 一、家蠶ガリブロイドの研究 (佐藤利教授) 江崎 勇雄、長末 方夫
- 一、天柞蠶体液の比重に就て (倉澤教授) 太田 光
- 一、ニコチン劑の蠶兒に對する藥害に就て (佐藤利教授) 萩原 和夫
- 一、家蠶血液の理學的性質とブルスとの關係 (浦生教授) 北原 幸治
- 一、各種植物のメチレンブルー反応に就て (遠藤教授) 小林 茂
- 一、桑葉の水分量と蠶兒胃液の殺菌力との關係 (佐藤利教授) 近藤 員夫
- 一、膿病蠶兒胃液の殺菌力に就て (佐藤利教授) 小山 長雄
- 一、桑葉の皮目と葉質、熟度との關係 (倉澤教授) 齊藤 重利
- 一、天柞蠶体液の粘重度に就て (遠藤教授) 清水 英人
- 一、蠶苗の耐鹽性に就て (山口助教授) 鈴木 彦佐
- 一、蠶卵の障害に對する抵抗力 (佐藤春教授) 高野 憲三、山田 次男
- 一、桑葉と蠶體諸性質とのP.H.關係 (須田助教授) 瀧澤 昌一
- 一、桑樹の石灰單用試験 (倉澤教授) 土屋 久雄
- 一、天柞蠶に及ぼす蜂の害に就て (宮坂講師) 長澤 得榮
- 一、ボカ菌に關する研究 (浦生教授) 西川 正夫
- 一、P.H.値とブルスとの關係 (浦生教授) 橋本 正太郎
- 一、生理物食鹽水の濃度とブルスとの關係 (遠藤教授) 箱山 佳夫
- 一、桑樹の浸水に對する抵抗力に就て (奥教授、細川講師) 長谷川 政雄
- 一、蒸熱による桑葉成分の變化、特に澱粉の變化 (佐藤利教授) 堀 江 誠
- 一、各齡蠶兒消化管内に於ける細菌數に就て (山口助教授) 目崎 武美
- 一、湿度が蠶繭及び蠶卵に及ぼす影響に就て (倉澤教授) 森 三郎
- 一、天柞蠶に加害する蜘蛛に就て (山口助教授) 谷澤 衛
- 一、卵黃の研究 (須田助教授) 山田 東洋男
- 一、桑樹の加里單用試験 (宮坂講師) 重田 正喜
- 一、蒸熱處理桑の夏秋蠶期に於ける飼育的價值 (倉澤教授) 重田 正喜

新任御挨拶

私は元來剣を執つて將兵一同と共に山野を跋渉すべき生活體系に生れた武骨一片の者であります。諸君の如き將來社會の上層に活躍すべき人々に訓育すべき資格もなければ何物も持たせのけない者であります。殊に私の過去を顧みれば、失策の連続でありまして、慚愧に堪へないのであります。そこで私は將來ある諸君に對してこの私の過失失策を以て教材として共に修養に努めたいと思ふのであります。幸に本校には校長閣下を始めとし、人格、學識共に私共の尊敬すべき諸先生が居られますから、私も再び學生となり若人時代の氣持を回顧し、諸君と共に御指導御指導を受けて職務に邁進したいと思つて居る次第であります。時將に國家の重大時機でありまして我々國民の戰前戦後を問はず各々其の分野に於ける戦士であります。相互に手を取りつゝ相戒め以て帝國臣民たるの本分に邁進したいと思ふのであります。將來萬事に宜しく御願する次第であります。昭和十三年十一月 配屬將校 歩兵大佐 進藤憲三

新任御挨拶

謹啓時下向寒の初愈々御快適之段奉賀上候。陳者小生僑不圖本校の雇を拜命圖書課に勤務致す事に相成候。素より未熟の者に有之候へ共誠心誠意を以つて其職責を完ふせん覺悟に御座候間何卒御誘掖御援助の程願上候。先は右略儀以紙上御挨拶申述度如斯御座候敬白。昭和十三年十一月 圖書課 金井 正一

退職御挨拶

拜啓秋冷之候愈々御健勝之段奉賀候。陳者私共多大の御懇情を賜り職中は公私共多大の御懇情を賜り誠に難有奉謝候。今回一身上の都合に依り退職仕候に就ては、今後共不相變御交誼賜度奉願候。先は右略儀以紙上御挨拶申述度如斯御座候敬白。昭和十三年十一月 三戸 部 満

第六回蠶學談話會豫告

日時 来る十二月四日(日)午前九時より
會場 母校 千曲會館

プログラム 次の如し
午前九時—十二時

研究發表

- 一、天蠶微粒子病除去の實例並に其の方法に關する檢討……………横山忠夫
- 二、蠶卵の發育早期に於ける障害に對する抵抗力……………山口定次郎
- 三、桑葉面に現はるる紫外線螢光に就て……………山口定次郎
- 四、蠶組驅除法としての蒸氣法特にその次代に及ぼす影響……………勝又藤夫

研究討議

論題 原蠶の發育と次代蠶との關係

文獻抄録提出者……………勝又藤夫 横山忠夫 山口定次郎 山崎壽

大体右の如き内容であります。會員諸兄の自由なる御出席を熱望いたします。特に研究討議に就ては從來の文獻を抄録し之に就て凡ゆる角度から討議を進める豫定であります。諸兄も御調査の上意見の御發表を願ひます。詳細は母校山口定次郎宛御照會下さい。

十一月九日 蠶學談話會係 山口定次郎

蠶學雜誌十一卷一號内容紹介

第十一卷第一號は左記の内容で唯今印刷中であります故近日中に讀者諸兄の手許に配本の運びとなると思ひます。本誌内容も號を追つて充實いたすことは御同慶の至りであります。次號第十一卷二號の編輯も近日中に開始いたします。考へてゐます故原稿至急御惠下される様御願ひ申上ます。

十一月 蠶學雜誌編輯部

第十一卷 第一號 目次 (昭和十三年十月)

報文

一、富山縣下に發生せる桑樹の萎黃病に就て……………遠藤保太郎

二、桑條の利用に關する研究

第一報 伐採枝條の利用に依る稚蠶用桑の育成……………齋藤菊雄

三、天蠶並に柞蠶體液の理學的性狀に就て

(一)特に電氣傳導度、滲透壓及水素イオン濃度……………倉澤美徳

調査

一、桑の葉質に及ぼす石灰窒素と硫酸アンモニアの影響の比較……………須田圭三

二、家蠶に於ける孵化の行動機構……………中島茂

資料

一、絹絲蠶類(主として野蠶)文獻抄録(三)……………池田正五郎 岡田卓郎

會費領收 (十月三十一日現在)

昭和十三年度會費金四圓也

鶴田定平(蠶一)	小林國造(蠶二)	土岐宣次(蠶一)	田中一男(蠶一)
戸倉惣兵衛(蠶二)	坂田榮雄(蠶二)	橋本景吉(蠶四)	鈴木孫三(蠶四)
久保田正樹(蠶三)	平澤隆三(蠶三)	石塚浪之助(蠶七)	栗原保定(蠶七)
中山鐵一(蠶四)	吉野健吉(蠶四)	村山晋(蠶九)	南澤清(蠶九)
高橋義三郎(蠶四)	佐藤俊三(蠶六)	新庄哲二(蠶十)	寺本秀吉(蠶十)
木脇寅藏(蠶四)	日野光平(蠶八)	恒川芳保(蠶十)	竹内健二(蠶十)
窪田禎作(蠶七)	小林繁(蠶八)	栗栖忠士(蠶十)	前田益藏(蠶十)
石原石司(蠶八)	原清志(蠶九)	牧野弘(蠶十)	蒲生勇一(蠶十)
清水潤一郎(蠶九)	向井政綱(蠶十)	常木朝憲(蠶十)	柳澤忠次(蠶十)
尾藤省三(蠶十)	山本三六郎(蠶十)	若井弘(蠶十)	左右田武(蠶十)
門田秀太郎(蠶十)	小中潔(蠶十)	白井要(蠶十)	多勢龜次(蠶十)
猪瀬親二(蠶十)	長谷川正雄(蠶十)	笠原重雄(蠶十)	和利晋三(蠶十)
水城孝勇(蠶十)	九合喜右衛門(蠶十)	高橋誠(蠶十)	相澤伸三(蠶十)
富田治衛(蠶十)	大谷内三衛門(蠶十)	野尻白二(蠶十)	島山茂忠(蠶十)
若林茂一(蠶十)	平石兵衛(蠶十)	湯澤稔(蠶十)	高橋伊作(蠶十)
大熊康代(蠶十)	今村良卿(蠶十)	宮城富雄(蠶十)	三谷勝(蠶十)
阿部和(蠶十)	寺島雅彦(蠶十)	長谷川洋治(蠶十)	佐藤孟(蠶十)
山崎壽(蠶十)	宮崎秋雄(蠶十)	永井俊郎(蠶十)	田尻恒治(蠶十)
阿部丈夫(蠶十)	齋藤幸藏(蠶十)	永井千幸(蠶十)	栗野慎一(蠶十)
池田善三(蠶十)	山下忠雄(蠶十)	中村守太(蠶十)	柳澤榮一(蠶十)
森戸晋(蠶十)	北澤孝一(蠶十)	永島滿(蠶十)	太田良信(蠶十)
山本友之(蠶十)	大澤實郎(蠶十)	高坂榮(蠶十)	鈴木保男(蠶十)
藤本衛佐雄(蠶十)	桑原實右衛門(蠶十)	根津健(蠶十)	荒木慎藏(蠶十)
池田三之助(蠶十)	桑原實(蠶十)	大木定雄(蠶十)	長谷川弘平(蠶十)
向坂朋二(蠶十)	北原喜昌(蠶十)	四方藤雄(蠶十)	秋山武一郎(蠶十)
岡崎勘助(蠶十)	飯塚安治(蠶十)	服部彌一(蠶十)	黒岩京次(蠶十)
石田繁(蠶十)	青木幸雄(蠶十)	依田實(蠶十)	小林進(蠶十)
小林辰夫(蠶十)	關辰夫(蠶十)	北澤常雄(蠶十)	一之瀬茂(蠶十)
濱節陸(蠶十)	永井眞吉(蠶十)	市原文雄(蠶十)	永田俊三(蠶十)
早乙女德藏(蠶十)	市村志眞(蠶十)	小井土英二(蠶十)	三宅豊常(蠶十)
藤井四郎(蠶十)	戸部正久(蠶十)	西山徳治(蠶十)	太田三郎(蠶十)
河野芳春(蠶十)	竹内直人(蠶十)	岩本賢次(蠶十)	池田爲雄(蠶十)
尾崎利雄(蠶十)	武田一好(蠶十)	山口清一(蠶十)	河野輝彦(蠶十)
山浦卓郎(蠶十)	櫻田隆(蠶十)	武部忠彦(蠶十)	尾澤敏男(蠶十)
赤羽是壽(蠶十)	町野隆(蠶十)	岡田重一(蠶十)	伊藤茂(蠶十)
岡本正男(蠶十)	櫻田隆(蠶十)	土屋三男(蠶十)	寺崎喜美(蠶十)
宮入保(蠶十)	齊藤章(蠶十)	西原美登(蠶十)	平澤和男(蠶十)
遠山正人(蠶十)	森川傳(蠶十)	古田政人(蠶十)	羽田滿(蠶十)
大尾晨義(蠶十)	高野賢造(蠶十)	磯部英三(蠶十)	石松博(蠶十)
傳田静夫(蠶十)	浅川茂樹(蠶十)	日幡英一(蠶十)	中村達(蠶十)
金洛頌(蠶十)	出野正雄(蠶十)	一時金貳拾圓納者	有賀正治(蠶十)
近藤武治(蠶十)	山内一夫(蠶十)	入會金納者	
久保田二夫(蠶十)	西澤政人(蠶十)	昭和十三年度會費	
植村滿義(蠶十)	多田忠正(蠶十)	入會金納者	
内藤康三(蠶十)	堀田稻三(蠶十)	完納者金貳拾圓也	
馬場順一(蠶十)	宇田哲郎(蠶十)	入會金納者	
都筑正一(蠶十)	水出巖(蠶十)	完納者金貳拾圓也	
生田日久平(蠶十)	長谷川敏夫(蠶十)	入會金納者	
武田恒久(蠶十)	堀口友治(蠶十)	完納者金貳拾圓也	

萩原炊夫記念資金募集 決算報告

集金額

金二圓也	齊藤猪之作	山本金之助
金一圓也	向井孫一	井口澄男
青木幹夫	清水英一	松井憲二
小林尙一	市川敏三	高橋眞澄
山内龍一	萩原清治	征矢克郎
山田良人	北澤常雄	宮坂美滿雄
椎原藤良	町野巖	大野孝治
熊谷恒次	香山巖	岩本賢二
岡村信夫	桑木正義	大井正夫
河村信夫	江野村一雄	關幸作
尾崎宗敬	工藤見吉	西山省
吉川啓人	岡孝四郎	市瀬武壽
牛草榮喜	横山良毅	荒木康男
金五拾錢也(在校生)	長末方夫	鈴木彦佐
谷澤衛	長澤得榮	富永恭一
橋本正太郎	富永	淺井清
飯田省三	飯田武門	
右合計金四拾八圓也		
募集額	發起人依願狀	金四拾八錢
封筒紙		金八圓六拾七錢
拂戻手数料		金拾五錢
計		金九圓六拾錢
差引	金參拾七圓四拾錢也	
右金額を去月萩原炊夫に贈呈致候間此所に御報告致し併せて御芳志を感謝致候。		
十月五日	發起人一同	
銚後資金寄附者 第七回		
金五圓也	手塚政吾	荒雄
宮坂美滿雄	松井正次	瀧入國治
金貳圓也	村上龜久司	若林榮
小林庸	岩下龍哉	有賀茂
吉野健吉		
阿久津伊平	中塚ミツ子	
金壹圓五拾錢也	戸田勝一	阿部丈夫
金壹圓也	北澤延榮	針塚民一
宮下富子	關只	宇都宮休一
今村與四郎	市原政治	瀧澤七郎
岡田量雄	塚田典次	阿形一三
佐藤祐三		
右合計金四拾九圓五拾錢		
累計金七百六拾參圓也		

百瀬 正氏より

淺沼袈裟男氏より

支會通信

滿洲榨蠶關係千曲會
々員會合

秋晴快過の候本部皆様に益々御壯健の御事と御慶び申上げ候。會務多端の今日皆様の御苦勞は倍するものある事と推察し支部に在る一人として常に感謝し居り候。滿洲千曲會も其後の發展實に目覚しく本年のみにて既に九人の新入會員を迎へ尙年内中二、三人の來滿をみる筈に御座候。湯川支會長の言葉通り滿洲に於ける榨蠶業は千曲會員の手により漸く軌道に乗り申し候。今後の斯業の躍進こそ眞に素晴しきものと確信致し居り候。御承知の如く日滿兩國の纖維資源は著しく不足を告げ居り候もこの不足を充すものこそ我々榨蠶纖維にして從來比較的等閑に附され居り候を不思議に存じ居り候。榨蠶纖維は今にして始めて其眞價を各方面より認められ從來の用途以外に羊毛代用、防寒用具、自動車タイヤの芯等新規にして而も大量の用途出で又獨伊兩國にも既に五百萬圓の商談續る等幾ら有るも尙不足とすると云ふの現状に有之候。新に滿洲國産業五ヶ年計畫にも編入され從來五〇億粒程度なりしものを今後三ヶ年間に約倍量の一〇四億粒に増産する事となり關係者一同大奮に御座候。この増産計畫に關聯し九月二十二日より二十四日に至る三日間當熊岳城農事試驗場に於て奉天省主催榨蠶講習會を開催致し候處主催者側關係を除く外部よりの受講者のみにて四十七名の多きに達し極めて盛會、熱心裡に終了仕候。講習の内容の一斑を左にお知らせ申上候。

講義
一、滿洲榨蠶業概論 湯川講師
一、榨蠶飼育要論 池田講師
一、日滿に於ける榨蠶飼育の比較 赤沼講師
一、榨蠶の微粒子病に就て 岡田講師
一、製絲法改良の目標と其の具體 廣野講師
一、榨蠶繭の格付に就て 廣野講師
一、農事試驗場各科見學
一、萬家蠶蠶場及製絲工場見學
一、微粒子病検査指導

この日千曲會關係の會する者十三人、又となき機會なれば二十二日晚餐懇談會を開き榨蠶業の將來を論じ各般に亘る意見の交換あり又最後は母校の話、上田の話を花が咲き思ふの思出等を語り十二時近しく散會仕候。其節の寄せ書を同封致し候間御覽下され度候。
(十月二日附鷹野誠一氏より千曲會宛)



龍川支會總會

今春開催される豫定の總會が都合上延々となり十月九日天龍峽を小規模にした緑な伊那峽に於て開催された。時期も良し天候も良かったので豫定通り集つた。本會よりは倉澤先生の御臨席を願へたので會を一層盛會にする事が出来た。先生には公務多端の折にも拘らず暇を御覧になつて御臨席下さつた事を紙上に借りて深く感謝致します。先づ小林支會長の挨拶、會務報告あり倉澤先生より千曲會の活動状況の御話あり、終つて宴會に参る。藝妓の酒問幹旋によつて胸襟を開き意氣軒昂、世を論じ蠶絲業を論じて時の過ぐるのを知らず夕刻となる。皇軍の武運長久の萬歳千曲會の萬歳にて會を閉じた。

當日出席者氏名(順序不同)
倉澤先生 石塚浪之助 小林茂樹
熊谷恒次 小林繁 中村武男
竹内眞喜雄 大森一男 森本倉之助
近藤重雄 吉田太一郎 竹村信吾
萩野俊一 吉田太郎 中村和
清家重明

針塚前校長歡迎會

針塚前校長先生の歡迎會を宮城千曲會員及山形千曲會員合同にて九月廿五日佐並温泉丸長旅館にて開催した。左は當日出席者が物した寄せ書である。



井上校長歡迎會

十月十二日午後「行く井上」と云ふ近接地電報が届いた。あまりの突然の事でどなたかと一寸迷つたが、井上校長に相違ないと感じたので早速市内に御勤務の會員にのみ電話で御知らせして御來神を待った。午後果して來神せられたが、承る

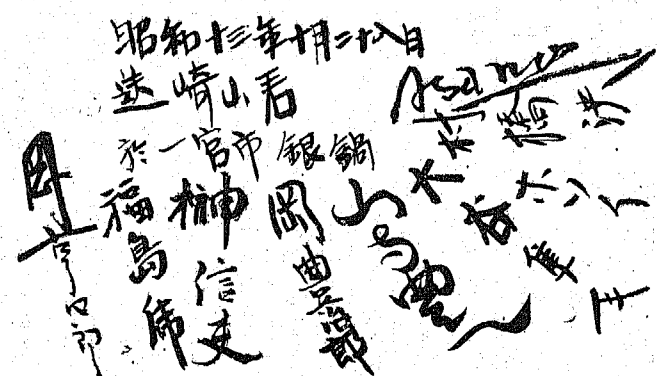


と十月十三日より京都高等蠶絲學校で全國農業專門學校校長會議が開かれるので御出席の爲め西下の途、神戸迄蠶々足を延して頂いたと云ふ事が判つた。時節相心許りの歡迎會を市内沖天閣に於て開催した。

新校長の御健康を祝し乾杯後先生から母校の近況を詳細に拜聴し懷舊談に花を咲かせ頗る盛會であつた。校長先生には御多忙中の處御寸暇をさいて御出席下され且つ出發時間迄我々の爲に御變更下され、長時間御臨席下された事を紙上に以て厚く感謝する次第である。
上は當日の寄せ書である。
(森西記)

みすゞ會の會合

今回みすゞ會々員崎山正克君が横濱輸出絹織物検査所へ榮轉される事になりましたので十月廿八日、一宮市銀鍋で送別會を開きました。同氏の將來の御發展を切に祈ります。之れは當日の寄せ書です。



栃木だより

新 庄 生

栃木支會創立最初の總會は武蔵三鎮陥落の戦捷氣分漲る、十月三十日をトし軍都宇都宮市中村屋で開かれた。

吾が栃木支會誕生の儀が持ち上つたのは昨年九月五日のことである。針塚校長先生が宇都宮高農で開かれる全國實業專門學校長會議に御出席の機を得て催された同窓會の席であつた。當時栃木は東京支會に屬してはゐたが遺憾なら支會の會合には誰一人も出席したことの無いのが實情であつた。東京迄出掛けるのは仲々億劫だ、行く時はまだ暑さが残るが夜汽車に疲れて歸るのは相當つらい、と云ふ様な工合で支會員も二十名を數へる様になり、時々かうして集るのだから一層針塚校長先生に御願し、東京支會とは菅澤氏が連絡をとり其の了解を得たので十一月二十三日の代議員會で本會の承認を得て獨立する事に定つた。そこで取敢へず會則並に役員を選挙し本會に肩出すの手續を了し茲に栃木支會の獨立となつた譯である。序年役員は次の通りである。

支會長 菅澤 隆三
副支會長 柳澤 忠次
幹 事 青木 針三郎
小 務 糟谷 道三樓
代議員 新庄 哲二郎

さて當日の様様を記さん……夜來の雨は仲々やみも無い。今日の集りが心配となる。柳澤氏と僕は製絲業組合の總會で昨日から宇都宮に泊つてゐるからいくら降つても安心だ。宿屋の女將に蛇の目の傘を買はせ洋服の裾を一寸まくり皮革統制を好む口實に相當古びた靴を幾度か修理に修理を加へ泥水の浸入を心配し乍ら恐るゝ會場へ着いたのが一時一寸

前、菅澤支會長が第一着用意萬端整へて女中相手に怪氣焰、續いて糟谷氏、青木氏が来る。雨の中を物ともせず續々と……と云ひたいが十人程集つた。青木氏曰「丁度豫定通り十人だ」と。

時節柄は遠慮、其の代り中村屋の美人女中を選び抜き總勢六名、十人の御客にサービス係六人とはチト贅澤過ぎる。菅澤氏曰「晝間の宴會に限る」と。さては日頃チップを儉約してゐると見へて忙しい夜など來ては女中のサービスが餘程悪いらしい。

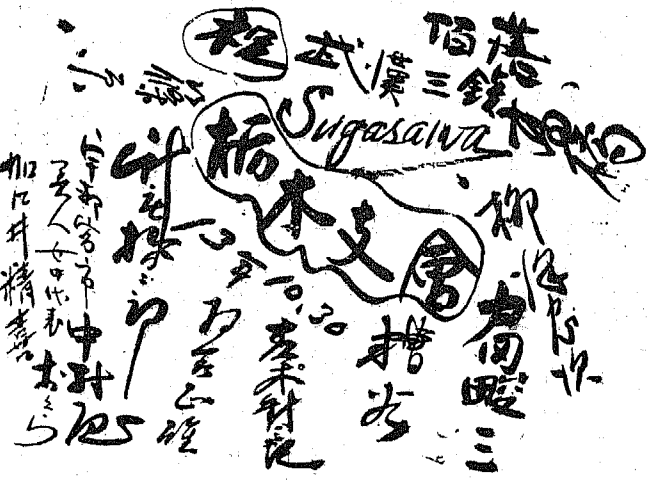
中村屋は饅頭と鳥料理が評判である。「酒は無制限、飲み放題」とはチト大き過ぎる。流石一人で二升もいける菅澤支會長の計畫だと感心。酒は誰にも負けない柳澤副會長も昨夜來の餘飲で今日は充分實力を發揮しない。青木氏は相當強いらしいガツチリと構へて飲んで御座る。鹿沼の高橋先生「俺は教員をしてゐるが酒などは一升でも二升でも飲む。酒が飲めなくなつたら死んだ方がよい。俺は鹿沼で有名な高橋だ」などと叫び乍ら一人く注いで廻る。日頃は人一倍謙遜で丁寧な君丈に相當異彩を放つてゐる。篠原氏「特約取引の認可方針が何とか」と菅澤副會長處理技師に御註文、此席でも昭榮の原料主任振りを發揮。宇農の糟谷先生スツカリ板についた先生タイプ、高橋先生と反對に酒は飲まない。サイダーではいくらか飲んで元はとれない。加々井君大分力加ヤイて來た頭をカス燈（今日は雨で暗いので中から點けてゐる）に反射させながら何か大事なものでも抑へてゐるのか兩手で股の所

を抱へて俯き加減にチビリ／＼やつてゐる。檢定所の戸田君、此程朝鮮から小山支所へ轉任して來た羽吉君と科は違ふが東寮で同じ釜の飯を食つたとかで仲のよいこと。菅澤支會長の例の寄書を書きしやうと盤をすり始める。流石は朝鮮で苦勞した羽吉君御大に盤をすりさせてはすまないと自分で引受ける所若いに似合ふ感心な男。是非よい縁を世話したい。嫁の話と云へば先程から例の高橋先生「俺の嫁の姉妹が宇都宮高女の先生だ。嫁なんぞいくらでも世話するぞ」と盛んに獨身黨を喜ばせてゐる。

酒がまはるにつれて木會館が出る。伊那節を喰ひ出す。出雲出身の菅澤氏御國自慢のドゼウ揃ひが飛出す。會場は賑やかを通り越して騒々しい位。かくて次第に油が乗つてくる。

雨はまだ降り續く。暮れ易い秋の日はいつしか暮色蒼然、電燈の輝きめる頃殊勝にも家路が思ひ出される。名残惜しいが五時半閉會となる。

それから後のことは俺は知らん。
（一〇月三十一日記）



會員動靜

（十月五日）

- | | |
|-------------|----------------------------|
| 金井 正一（現職） | （勤）本校圖書課（住）上田市鷹匠町四九八番地 |
| 森 干城（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 小笠 晋（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 神原 鶴次郎（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 尾原 祐八郎（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 田村 次郎（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 小山 啓造（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 中野 武良（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 天野 武良（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 坂田 正賢（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 門田 正賢（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 竹内 虎夫（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 武本 治（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 松原 幸太（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 眞木 元（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 田村 亮（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 古川 正喜（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 百瀬 哲一（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 永井 眞吉（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 山本 邦一（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 千吉 良幸（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 高野 賢造（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 小林 輝夫（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 林 四郎（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 坂口 芳文（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 水谷 清（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 石原 滿洲雄（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 鑑塚 好作（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 田近 繁（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 服部 令吉（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 鈴木 正一（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 奥村 忠治（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 出野 正雄（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 母袋 忠右衛門（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 桂 元三（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 本居 高行（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 市川 信二（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 土岐 宜治（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 遠藤 文平（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 甲斐 孜（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 永井 榮（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 藤見 喜六（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 味澤 泰造（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 船越 重勝（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |
| 戸村 墨三（現職） | （勤）山形市、山形縣縣廳（住）山形市東原町一ノ二〇八 |

計報

名譽の戦死通知

養蠶科第廿二回卒 服部吉氏

九月八日名譽の戦死を遂げらる。謹みて敬弔の意を表す。同氏は卒業後直ちに〇部隊へ入營昨年夏除隊と同時に應召されたものである。御遺族は岐阜縣安八郡洲本村殿父服部悦次郎氏である。

名譽の戦死通知

養蠶科第廿五回卒 岡宮辰夫氏

九月廿四日河南省濟源縣後揚山北方高地附近の戦闘に於て名譽の戦死を遂げた旨十月三日原隊より發表があつた。同氏は上田市新田出身、昨年西保隊の戦闘でも戦傷せる勇士に於ては嚴父常藏氏(六〇)母ちよ氏(五〇)、姉妹二人がある。謹んで哀悼の意を表する次第である。尙嚴父常藏氏より十一月三日千曲會宛の書面を左に示す。

恩息辰夫此度戦死致候處早速御鄭重なる御弔問を辱ふし尙又佛前に結構な御供物を頂戴いたし誠に有難奈深謝候右は九月二十四日午前八時零分支那河南省濟源縣後揚山北方高地附近の戦闘に於て戦死致候條唯今原隊より報告いたされ候に付御了承被下度候。先は右御禮申述旁如斯に御座候。

逝去通知

紡織科第九回卒 草野弘氏

十月十日逝去せらる。謹んで哀悼の意を表す。同氏は母校卒業後長らく蠶絲總覽の編輯に従事され最近五泉實業學校へ轉ぜられたもので一年有余の闘病生活も効無く遂に逝去せられたものである。御遺族は新潟縣五泉町吉澤二二二令岡草野春子氏外遺兒二名がある。

名譽の戦病死通知

養蠶科十三回卒 望月榮作氏

十月十六日名譽の戦病死せらる。謹んで敬弔の意を表す。御遺族は南安縣郡種高町宇等々力町令望月藤子氏である。

弔慰金募集

故草野弘氏(紡九) 故岡宮辰夫氏(紡廿五) 故服部吉氏(蠶廿三) 故望月榮作氏(蠶十三) 右四氏に對し弔慰金を募集します 弔慰金は昭和十四年一月末日迄に取組め御遺族へ贈致したいと思ひます 千曲會

藤澤喜一郎氏町葬

十月四日須坂町に於て戦死せられたる歩兵伍長藤澤喜一郎氏(紡二一)の町葬施行せられ母校より井上校長、岡紡織科長野口教授、小林助教、湯原講師が参列した。

手塚達郎氏市葬

戦死せられたる歩兵軍曹手塚達郎氏(蠶二一)の市葬は、外子と共に十月十日上田市小學校北校庭に於て盛大に舉行され母校より職員大部分、養蠶科生徒全部が参加した。

弔慰金報告

故山口榮太郎氏弔慰金第三回 金壹圓也 石原滿洲夫 百瀬正 右合計金貳圓也 故笠原松平氏弔慰金第六回 金參圓也 藤入國治 金參圓也 故伊藤柳作氏弔慰金第三回 金參圓也 遠藤文平 豊部正巳 金貳圓也 高田茂重郎 東家明秀 金壹圓也

右合計金九圓也 累計金參拾壹圓也 先月號故菅沼三郎氏弔慰金は故菅野と訂正します。

故草野弘氏弔慰金第一回 金五圓也 岡徳治郎 石倉新十郎 金貳圓也 野口新太郎 金貳圓也 小林清丸 香山清和 小松忠一郎 小林尚一 蒲生俊興 金壹圓也 目崎三郎 須田圭二 林貞三 倉澤美徳 山口定次郎 窪田潤 荻原清治 宮下丈夫 町田博 湯原諒 右合計金參拾參圓也

故藤澤喜一郎氏 御遺族よりの禮状

故夫喜一郎儀先般支那山西山嶽地帯の戦闘に於て戦死致し候に就ては種々御高配を蒙り尙昨四日町葬舉行致され候節は特別に御會葬を蒙ふし且つ御鄭重なる香花香料を賜り候段感銘に不堪茲に謹而御禮申上候 昭和十三年十月五日 敬具 長野縣上高井郡須坂町 遺族 藤澤武代 外親 戚一同

千曲會御中

拜呈秋冷の候高堂皆々様御機嫌よく渡らせられ慶賀申上げます。故夫喜一郎儀戦死の報ありてより以來御懇切なる御慰問の程をうし御心盡しの數々を賜はり御厚情の程遺族一同心から感謝して居ります。本月四日須坂町の町葬も厳肅に行はれ遺骨も郷里高井村に埋葬し御蔭様にて萬端無事に相済み今は一子一孫の成長の爲に將來の方針を定むるばかりと相成りました。就きましては今後何かと御指導御援助を仰がなければならぬ事と存じます。何卒宜しく御願申上げます。實は參上御禮申上げべきの處其の意を得ず失禮ながら書中を以て厚く御禮申上げます。 昭和十三年十月二十一日 上田市常入 藤澤 武代 郎

關口三郎(七)	(勤)第一生命上海支店(舊神奈川支會)(留守宅)横濱市中區本牧町三ノ六九二
梅澤萬次郎(七)	(勤)横濱市中區本町四、三菱商事生絲部
三浦重雄(七)	(勤)埼玉縣兒玉郡本庄町、富士瓦斯紡績本庄工場(佳)本庄町江戸上町
渡部亘(七)	(勤)大阪市北區堂島濱通り二丁目、東洋紡績絹毛課(名簿中渡邊亘とあるは渡部亘の誤)
西孝重(八)	(勤)仙臺市長町、宮城縣南檢定所(舊神奈川支會)
好士泰雄(八)	(勤)豊橋市製絲試驗所(舊神奈川支會)
飯島輝雄(八)	(勤)長野市、八十二銀行
富田正三郎(八)	(勤)長野市、津市伊豫町西川春藏方富田梅子
奥村好一(八)	(勤)石川縣河北郡津幡町、石川縣南檢定所
堤玄治(九)	(勤)ナシ(佳)關東州旅順市及木町
依田武治(九)	(勤)先般改稱、神戸市葦合區協濟町三丁目、東亜金屬工業株式會社(佳)從前通り
清水重雄(一〇)	(勤)上田市常入、笠原組上田工場
小山俊吾(一〇)	(勤)東京府北多摩郡立川町、東京府南檢定所(佳)立川町旭町三九五
原利直(一一)	(勤)滿洲國新京市、滿洲炭礦株式會社(舊東京支會)(佳)新京市中央通東洋旅館内
中津信一郎(一二)	(勤)秋田市、秋田縣南檢定所
梅澤治三郎(一二)	(勤)先般改稱、東亜纖維工業株式會社
神戶敏夫(一二)	(勤)先般改稱、東亜纖維工業株式會社
山田茂忠(一三)	(勤)務先改稱、東亜纖維工業株式會社
望月榮作(一三)	(勤)昭和十三年十月十六日戦傷死
渡邊康平(一四)	(勤)小縣郡神川村大屋、上小縣絲販賣組合聯合會(舊諏訪支會)
有賀康人(一四)	(勤)横濱市中區本町四、片倉製絲紡績株式會社横濱出張所(佳)全上
倉澤源太郎(一四)	(勤)東京市京橋區京橋三丁目、片倉製絲紡績株式會社(佳)横濱市神奈川區松ヶ丘五二
有松利一郎(一四)	(勤)埼玉縣児玉郡若泉村、原織維工業所(舊群馬支會)
栗野慎一郎(一六)	(勤)仙臺市長町、宮城縣南檢定所(舊群馬支會)(佳)仙臺市長町
杏掛聰(一六)	(勤)高崎市飯塚、碓氷社高崎工場(舊諏訪支會)
三木辰雄(一六)	(勤)群馬縣碓氷郡原市町、碓氷社原市工場
神崎碩夫(一七)	(勤)和歌山市、和歌山縣經濟部農務課(佳)和歌山市關戸高松一三六
小池貞章(一七)	(勤)滿洲國奉天省海城縣公署
西山省(一九)	(勤)鹿兒島縣志布志町、薩摩製絲株式會社(舊東京支會)
平山俊夫(一九)	(住)熊本縣鹿本郡吉松村今藤七
石井清六(二〇)	(勤)留守宅、朝鮮全羅南道光州府鶴岡町鐘紡光州工場社宅
宮下文四郎(二〇)	(勤)福岡市、福岡縣南檢定所
坪根克彦(二〇)	(勤)鹿兒島縣志布志町、薩摩製絲末吉工場(舊宮崎支會)
金丸功(二〇)	(勤)長野縣小諸町、長野縣南檢定所小諸支所
瀧澤正一(二一)	(勤)兵庫縣武庫郡本庄村、蠶絲化學工業所(舊安藝支會)
横澤平(二一)	(勤)小縣郡九子町、依田社カネタ工場
小井土英二(二一)	(勤)神奈川縣高座郡泰川村、昭和産業株式會社
片岡金一(二二)	(勤)横濱市中區山下町二二四、商工省横濱輸出絹織物検査所(舊東海支會)
土屋安治(二二)	(訂正)十二年度名簿に桑本とあるは桑木の誤
崎山正克(二二)	(勤)東京市目黒區大岡山、東京工業大學
桑本正義(二三)	(勤)本年中吳市に出張(佳)吳市鹽屋町番外二五四上方
山端爲夫(二三)	
江口直吉(二四)	

